

2023年度 第3回 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会  
議 事 録

1. 開催日時 : 2024年 2月15日(木) 19:00~20:37
2. 開催場所 : 町田市医師会館
3. 出席委員 : 川村益彦、五十子桂祐、土屋孝治、井上俊、岡元信太郎、  
西原佳子、齋藤秀和、大島泰嗣、藤原幸雄、柴和夫、迫田優、  
小川貴央、平田兼一、永見直明、高橋良彰、山田剛寛、田川尚寛、  
長谷川昌之、齋藤美和子、早出満明、江藤利克  
計 21名(敬称略)
4. 欠席委員 : 松岡亮二
5. 市側出席者 : 高齢者支援課 皆川麻美、斉藤幸一、山田冬射、大歳悠輔、鈴木琴音  
(敬称略)
6. 医師会出席者 : 事務局 阿部齐人、金澤伶 (敬称略)
7. その他報告者 : 南第2高齢者支援センター 岡根浩太郎 (敬称略)
8. 傍聴者 : 43端末
9. 記 録 : 町田市介護人材開発センター 石原正義、宮本千恵、奥山里菜

《資料》

- 資料1 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト  
医療・介護資源マップ掲載情報更新のお願いについて(依頼)
- 資料2 町田市患者や利用者等からのハラスメント相談窓口事業の研修会開催結果について
- 資料3 第21回多職種連携研修会(専門職向け)開催結果について
- 資料4 第22回多職種連携研修会(市民向け)の開催について
- 資料4別紙 第22回多職種連携研修会チラシ
- 資料5-1 地域ケア推進会議報告書(南第1)
- 資料5-2 地域ケア推進会議報告書(鶴川圏域①)
- 資料5-3 地域ケア推進会議報告書(鶴川圏域②)
- 資料5-4 地域ケア推進会議報告書(鶴川圏域③)
- 資料5-5 地域ケア推進会議報告書(町田圏域①)
- 資料5-6 地域ケア推進会議報告書(町田圏域②)
- 資料5-7 地域ケア推進会議報告書(忠生圏域①)
- 資料5-8 地域ケア推進会議報告書(忠生圏域②)
- 資料5-9 地域ケア推進会議報告書(忠生第1)
- 資料6-1 「(仮称)いきいき長寿プラン24-26」(素案)概要版
- 資料6-2 「(仮称)いきいき長寿プラン24-26」(素案)抜粋
- 資料6-3 医療と介護の連携支援センターによる地域ケア会議の開催について  
救急医療情報キット(案)の見直しについて
- 資料7 部会での検討まとめ
- 資料7別紙1 医療情報記録用紙
- 資料7別紙2 電子化にあたっての主な部会意見まとめ
- 資料7別紙3
- 資料8 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針  
(2024~2026年度)(案)
- 資料8別紙1 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクトの取り組み  
(~2023年度)
- 資料8別紙2 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト  
(2024~2026年度)工程表(案)
- 資料9 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト10周年記念講演会の開催について

## 《開 会》

### 1 開会挨拶

【川村会長】 皆様、こんばんは。お仕事のあとで夜に集まっていたいただき、ありがとうございます。今日も盛りだくさんのため速やかに進めたい。ちょうど先日 ACP の研修会をしたが、たまたまテレビを観ていたら NHK でもそれらしいドラマが始まっていて、市民向け研修会にグッドタイミングだと思った。さすが町田はやるのが速いと自画自賛している。今日もよろしくお願ひします。

### 2 報告事項

#### (1) 医療・介護資源マップ掲載情報更新のお願いについて【資料1】

【高齢者支援課・鈴木氏】 鈴木氏より資料1に沿って説明された。

提出が提出期限に間に合わない場合、町田市介護人材開発センターへ相談してほしい。更新がない場合も町田市介護人材開発センターへ連絡してほしい。

#### (2) 町田市患者や利用者等からのハラスメント相談窓口事業の研修会開催結果について【資料2】

【高齢者支援課・鈴木氏】 鈴木氏より資料2に沿って説明された。

通所事業所連絡会に協力をいただき、1月に開催された通所事業所連絡会後にオンラインで個別相談会を実施し、2件の相談があった。

【藤原委員】 1月に小規模事業所と認知症対応型のデイサービスが集まって、町田市合同運営推進会議を行った。そのときにハラスメント相談窓口の説明をいただき、閉会後に個別相談させてもらった。こうした機会がとところどころであると助かると思った。

#### (3) 第21回多職種連携研修会の開催結果について【資料3】

【研修部会・岡根部会長】 岡根部会長より資料3に沿って報告された。

#### (4) 第22回多職種連携研修会の開催について【資料4】

【研修部会・岡根部会長】 岡根部会長より資料4に沿って説明された。

現在の申し込み状況は、まだ空きがあるため、2月28日まで申し込み期間を延長する。測定会を実施するにあたって、各機関の貴重な物品を貸し出している。この場を借りて御礼を申し上げたい。当日、協力者があって実施できるものである。現在、各団体にご協力をお願いしている。これからではあるが、この場を借りて御礼を申し上げたい。定員に空きがある状況に対しては、引き続き、地域のいろいろな方に発信をしていただきたい。データはすでに共有している。紙のチラシはわずかになっているが、今日持ち帰りた方は後方にあるだけだがお渡ししたい。測定時にはリハビリテーション連絡会に協力をいただき、町トレをライブで体験していただくコーナーを準備している。

【五十子委員】 申し込みがいっぱいになったとして、講演だけ聴きたい人は聴けるのか。

【研修部会・岡根部会長】 現段階では、定員に達したところで申し込みを締め切ることになっている。今回、場所が南地区の成瀬総合体育館で、以前は市役所で測定会を行ったが、町田の南端になってしまったところもある。今回、市内在住在勤在学の方であれば対象になるので働いている横浜市の方でも誘っていただける。アクセスしにくいことが申し込み低調な状況を作っているのかと思っているので、ぜひ皆様のお力をお借りしたい。

【高齢者支援課 鈴木氏】 今日の段階で1部、2部ともに40人程度の余裕があり、トータルで80人位参加ができる状況となっている。申込期間を28日(水)まで延ばしているので周知にご協力いただきたい。

#### (5) 地域ケア推進会議について【資料5】

【長谷川委員】 長谷川委員より資料5に沿って報告された。

資料のなかで、今回は二つ紹介させていただく。資料5-1「アルコール問題を抱える方とのかかわり方」では町田市医師会所属のよしの病院 河本先生に講義をしていただいた。南第1エリアにおきまして、アルコール問題を抱える方にどのようにアプローチをしていけばよいか、個別の課題が上がり、こ

これは圏域で共通する課題ではないのかというところで、この問題について推進会議を開催している。推進会議のなかでは河本先生より、実際のアルコール問題を抱える方の患者数の変化や病院への受診がゴールではなく、地域で取り組むことが必要とのお話をいただいた。こちらに関しては決して南第1エリアだけで起きている問題ではないと考えているので、今後、医療と介護の連携支援センターとしても地域ケア推進会議として検討していければと考えている。続いて、資料5-5、5-6の町田圏域について今回の報告は、企画会の報告となるが圏域全体の事業所に声かけしての全体会は、明日2月16日(金)に予定している。企画会では、昨年作成したフレイル予防の啓発のリーフレットをさらに地域住民の方に普及し活用していただくために、どのように進めていくかを多職種に参加していただき、進めている。専門職が常々関わるのではなく、高齢者本人が自ら活動できる取り組みをするためにチャレンジカードなどを試作して、企画会メンバーで使用しながら明日の全体会での報告を行い、さらなる活用についてアイデアをいただく予定である。また取り組みを進めるためにツールとして、チャレンジカードをお薬手帳カバーのサイズにしてお薬手帳カバーにはさみ込むことで、お薬手帳カバーもさらに活用できるように検討している。このように以前町プロで採用された様々なツールがあるので、それらも合わせて活用していくことは非常に連動性があると感じている。次年度以降、町プロ主催研修会、地域ケア推進会議においても、現在町プロで取り組んでいるACP(人生会議)なども取り入れていながら各圏域における地域ケア推進会議の取り組みとしても検討していただくことが必要と考えている。

(6)「(仮称)町田市いきいき長寿プラン24-26」について【資料6】

【高齢者支援課 斉藤氏】 高齢者支援課 斉藤氏より資料6に沿って報告された。

【五十子委員】 資料25~26ページの「取組みの方向性」の8番に町プロが入っているが、「取組みの方向性」の横に「重点」の記載がないが重点とされていないのか。この違いは何か。10年やってきて重点されていないのか気になった。

【早出委員】 当然町プロの取り組みが重要だと市も考えている。今回の計画のなかでは、3つの取り組み、「取組みの方向性」で言えば①と②、⑥と⑦、⑩、くくりでいうと3つであるが、この重点の考え方について、一番最初が介護予防の取組み、2つ目が認知症の取組み、3つ目が介護人材の取組みとなっている。この3つの取組みについては特に市が市民とともに協力して実施することを視点に、この計画を市民にも見ていただきたく、選定をしている。昨日も審議会があり、計画審議会の方でもご意見をいただき、答申を受けている。そういったご意見も踏まえながら決定させていただいたものである。

【川村会長】 認知症と医療と介護の連携で我々がやっているところで、実際のところで認知症も入っている。分けざるを得ないのか仕方ないと思いつつも、認知症もみているし、と思いながら図を見ていた。実際、介護の場では認知症をいっぱいみているし、こういうふうにシステムティックに書くのは仕方がないのかと思うが、現場では認知症をいっぱいみているので、うーんという感想を持った。

【齋藤副会長】 私と五十子委員も審議会に出ているが、これは今から変更できるか、できないですね。

【早出委員】 説明の冒頭でしっかり経過をご説明しなければいけなかった。今回、報告事項としてこの場で共有させていただいた。先ほどの私の説明のなかで、この計画は市だけで決めているわけではなく、様々な立場の方も入ったもので、この協議会に参加している方もかなり入っている会議の場で議論を重ねて作成したものである。この場でご意見をいただいて変更はできないという前提で報告をさせていただいている。資料のなかでしっかり書いている部分があるので説明する。資料の27ページ、概要版でいうと10ページだが、ここに3つの重点テーマが記載されている。審議会のなかで議論され了承いただいた内容は、「社会参加」で介護予防・フレイル予防、認知症とともに生きるまちづくり、あつまる・つながる まちだの介護人材、こうした3つの取り組みを重点テーマとして掲げさせていただいた。この冒頭がまさに重点の考え方で、市ではこれまで高齢者施策として高齢者の生きがいづくり、介護予防、フレイル予防等、様々な課題に取り組んできた。このうち、先進的なものもあるということで、今行っている市の取り組みのうち幅広い世代や立場の方が関心を持ち、また関わることにより、これまで以上に効果を生み出すことができる3つの分野を重点のテーマとした。これが重点テーマの考え方である。この場の町プロで議論する内容にはこうした部分も含まれる。町プロの取り組みも当然重要だと考えているが、今回はこの考え方に基づいてこの3つとしている。

- 【五十子委員】 27ページに書いている3つの重点テーマに関して先進的な取組みとして、スリランカや韓国やシンガポールから視察が来ているのか。
- 【早出委員】 これは特に認知症施策だが、この国からの視察があった。スリランカは2023年中に視察があった。
- 【五十子委員】 日本の高齢化率が高いからか。
- 【早出委員】 日本の高齢化が世界で最も進んでいる。韓国なども高齢化が急速に進んでおり、その参考になるということで日本の取組みが注目されている。そういう意味での海外からの視察が多いと認識している。
- 【齋藤副会長】 37ページの医療と介護の連携に関する地域ケア会議を開催しますということをやっているが、地域ケア会議は私たちから見るととてもわかりにくい。国がやっているのは個別の課題を解決するという部分がまずあって、それを蓄積して課題として地域ケア推進会議をやっていきなさいというふうに私としては認識している。個別の課題に関しても連携センターが入っていくということなのか。
- 【高齢者支援課 斉藤氏】 おっしゃるとおり、地域ケア会議には地域ケア個別会議と地域ケア推進会議とこの町プロ含む市地域ケア推進会議がある。今考えているのは医療と介護の連携支援センターには、地域ケア個別会議と地域ケア推進会議の両方を医療と介護の連携に課題があれば開催していただきたいと考えている。
- 【柴委員】 私は町田市民だがこういった情報がどこで得られるのかわかっていなくて、先ほどの12月15日から1月15日でパブリックコメントが終わっていたが、こうした情報はどこで市民に出しているのか。
- 【高齢者支援課 斉藤氏】 月並みな答えになるが市の広報誌や市のホームページでこうした情報を広報して意見を募集している。
- 【柴委員】 受け身な気がするが、そういうのでいいんですかというのも変だが、私も市民なのだがもっと本当にほしいんだよというようなものが市民として感じられなかったと思った。情報が得られなかった人は期間が終わっていてコメントできない。私はここへ来て初めて知ったので町田市民の何パーセントが知っているのか。例えば市民に対してコメント数がどのくらい来ているか3月にわかると書いてあるが、そこはどのくらい来ているのか今わかるのか。
- 【高齢者支援課 斉藤氏】 記載のとおりご意見募集期間は12月15日から1月15日として、郵送等による20名から延べ74件の意見をいただいている。
- 【柴委員】 それは多い意見なのか。
- 【高齢者支援課 斉藤氏】 計画ごとになるが役所の計画はいろいろな分野のものがあるが、その計画ごとに差が大きくて一概に全計画を見比べて多い少ないとは言えないが、20名延べ70件は少ない数字ではないと感じている。
- 【柴委員】 この数字に関して重要と重要でないというところの取組みのところでの意見は74件きたものが重要だとしたら、それ以外のものは重要でないという判断でよろしいという認識ですよ。このことを知っている人がどれくらいいるのかわからないが、100人っていないコメント数。どれだけみているか、何パーセントきているかもわからないが、もう少し市民にこうした活動が知れ渡ったほうがいい。岡根さんのイベントも定員50人のところ40人の空きがまだあるというのもそうだが、もっとわんさか人が集まって、もういっぱいなんだみたいな方が介護が盛り上がっていると思うが、もうちょっと発信の仕方、時代に合ったものがあると思うがどのように考えているか。
- 【早出委員】 ご意見ありがとうございます。こういった市で作る計画には多くの方にご意見をいただくのが前提だが、今ご報告した人数や件数という状況がある。まさに委員の方から言っていた、私は知らなかった、というところが一つの意見だと思う。今後、様々な場面で、今回の研修の広報もそうだが、しっかり広く市民の方に情報を伝えていくことについては今後しっかり考えていきたい。

### 3 協議事項

#### (1) 救急医療情報キットの見直しについて 【資料7】

【救急医療情報キット部会・井上部会長】 救急医療情報キット部会・井上部会長から資料7に沿って報告された。

- 【五十子委員】 先日行われたACPの研修の情報を載せる予定はないのか。
- 【井上委員】 ACPやDNARなどの意見はあったが、救急隊の方への情報量として多すぎてしまうため、今回は入っていない。実際の記録用紙の備考に書くなど個別の対応をしていただきたい。
- 【五十子委員】 せっかくACPの研修がもったいないという感想。話が脱線するが、DNARの定義が間違っている。恥ずかしながら、医療者の病院の先生方も間違っているのです、その所も一緒に話し合った方がいいのでは。DNARとは、心肺停止の患者さんに“しない”ということなので、今この呼吸の状態が悪いんですけども、この人DNARはというのはちょっと概念としておかしい。みんな間違えて考えていると思う。もし、このなかにDNARを書く時は、気を付けないといけない。ぜひ部会で話し合ってください。
- 【齋藤議長】 支援センター委員として質問させていただきたい。高齢者支援センターで在庫管理は一括管理可能かと思うが、もし、かかりつけの先生や薬局、訪問看護等、「この方はキットを備えておいた方がいいと思われる方」を見つけられた場合は、その人がセンターに取りに来るのか、センターにご連絡をいただき、お届けするのか。どのように想定されているのかを教えてください。
- 【井上委員】 残数は高齢者支援センターで把握する。配布は民生委員や薬局、必要と思った方が取りに行くことを想定している。支援センターは、残数やどのくらい配布したかというのを管理していただく。
- 【齋藤議長】 救急医療情報キットの目的において、対象が、高齢者や障がい者等となっていることから、65歳未満の必要だと判断される方が出た場合は検討していただけないか。
- 【井上委員】 その場合、紙のシートを配布し、キットをご自身で作成していただくことになる。筒形のキットは65歳以上の独居の方に配布。順番は、年齢や優先度の高い方から配布。
- 【齋藤副会長】 あんしんキーホルダーは有料化されている。やはり、必要な方には渡すために、ある程度の有料化は検討していないのか。必要と思う人は購入したい、欲しいとなる。全部無料というのはどうなのか、ということを個人的には思う。支援センターも大変と思うが有料化も検討する意義があるのではないか。
- 【井上委員】 有料化について、参考にして持ち帰らせていただきたい。

協議事項1は、全会一致で承認された。

- 【早出委員】 先程の報告事項「いきいき長寿プラン」の説明の中で、今回定めた重点テーマはそれが重要かどうかを表しているものではなく、重点的に推奨していくという意味で、各取り組みが、重要か重要ではないかということを表しているものではないことを補足させていただきたい。

## (2) 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト実施方針(2024～2026年度)(案)について 【資料8】

- 【高齢者支援課 齊藤氏】 齊藤氏より資料8に沿って報告された。
- 【迫田委員】 (2)のACPの推進について。実は私自身が第21回の多職種連携研修会の108人の中の参加者だった。そこで「ACPを広めるためにはどうしたらいいか」グループワークを通して、奇想天外な意見や、学校でやったらどうか、などの意見が出た。そこで、今回のACPの推進の工程表に「普及啓発の検討」とあるが、その研修会で出たグループワークの意見は反映されていくのか。また、どのように反映されていくのか。
- 【高齢者支援課 齊藤氏】 工程表に「普及啓発の検討」を掲載しているが、今後は、研修会で普及啓発をやっていくのか、それともツール等を使って啓発していくのか、あるいはまた別の方法で啓発していくのか、ということに関して、具体的にまだ決まっていない。研修部会などの結果や意見、また委員から多くの意見をいただき、また、グループワークの意見を参考にしながら、どういったものが一番効果的かこれから検討させていただく。「ACP」というテーマであるが、前向きにできるように考えていきたい。
- 【迫田委員】 参加している方々も最初はやっぱり、後ろ向きなイメージから入って、実際に研修に参加した。「もっと前向きなものなんだな、自分もやってみようかな」と思えるようなテーマだと思う。もっと、どんどん進めていいのかなと思った。
- 【五十子委員】 コロナ前と、コロナが気にならなくなった今を比べて、今この業界の状況も変わったのは。例えば医師会なら外来を受診する人数からいろいろなことが変わったと聞く。そこを加味したうえ

で、考えたところはあるか。ACPはその一つだとは思った。ACP等に関しては医療の方からしたら非常にありがたい。言い方が難しいが市がそこに取り組んでいただけることが前向きな話なのかなと思う。コロナ前に考えていたことと変わってしまったというところがあるのでは。例えば、Dr.Linkもすごくいいピックだが、コロナ禍では先生たちに直接会いに行くことが難しい。だからこれを漠然と利用するとしても、難しいと思う。そこを踏まえて考えがあれば教えていただきたい。

【高齢者支援課 齊藤氏】 ご指摘いただいたとおり、このプロジェクトをすべて今までどおりやっていく、効果検証なしでやっていくだけでは、ただずっと続けていくだけのものになってしまう。資料8の3の5段目にもあるとおり、大事なものは「本プロジェクトの内容を定期的に振り返り、より効果的な取り組みにつなげるための効果の検証」を行って、目標設定と検討を行っていくことが重要だと思っている。別紙2の今あるものをそのままやっていくだけではなく、効果の検証と更新を踏まえながらやっていく必要があると感じている。なので、一気に全部はできないが、重要なものから効果を検証しながら、振り返りも行いつつ、どのように変えていくべきか、どのように効果的に使えるか等の検証も交えながらやっていきたい。

【五十子委員】 薬剤師会の井上先生にもお聞きしたいが、資料8の(2)の⑤に、お薬手帳に書き込んだりすることで外来に情報共有するみたいなことは実際にあるのか。私はお薬手帳を外来に持ってきてももらったときに情報共有するようなことを書いたことがない。実際の現場では結構されているのか。

【井上委員】 抗がん剤など症状が出てきている方などは病院とやり取りをしたりするところもあると聞いている。できれば、お薬手帳を活用していただいて、薬剤師がコメントを書いて、それを先生方に見ていただくような連携に使えればいいが、その周知ができていないことが、これからの課題じゃないかと考える。

【五十子委員】 その周知というのは、医師会側から周知するのか、どのようにするのか。

【井上委員】 医師会、薬剤師会で、町田市のツールとして活用するというのであれば、もっとよりしっかり見ていくということで、お互いに周知していくことがより良いと考える。

【五十子委員】 介護職の方々も書いているのか。気付いたこととか。

【井上委員】 そうですね、書いていただくと助かります。お薬に関して重要だと思う。

【土屋委員】 渡しはお薬手帳に、抜歯後は医者やケアマネ宛に「抜歯をしたので、しっかり食事がとれない」など記入し渡したことがある。あとは、新しく義歯を変えたときも同内容を書いたことがある。

【井上委員】 市民病院は、この方が入院するので、ここまではお薬の情報を把握しているので、「追加があったら追記をお願いします」などのコメントが入っていることが結構ある。

【五十子委員】 それは市民病院のドクターからか。薬剤師からか。

【井上委員】 薬剤師が把握していたので、薬剤師だったと思う。

【永見委員】 私が知らないだけかもしれないが、町プロ資料8の(5)「感染症対策等の体制整備」が目的、方針に入っていることを今改めて知った。今年も大きな災害があり、先程の地域ケア会議に災害に取り組んでいるということも見させてもらった。町田市がどのような災害対策をしていて、そこに医療や介護がどのようにかわっていくかを、どこかの機会、町プロのなかでも知れる機会があったらいいなと思った。この方針の中に入っているならば、そういうことも必要なのでは。

【高齢者支援課 齊藤氏】 ご指摘どおり、大きい災害もあった。こういった節目もあるので、町田市の災害に対する取り組みやガイドライン等を知る機会を情報提供できるように検討させていただく。

協議事項2は、全会一致で承認された。

### (3) 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト 10周年記念講演会の開催について 【資料9】

【高齢者支援課 齊藤氏】 齊藤氏より資料9に沿って報告された。

【齋藤副会長】 いい企画だと思う。何人規模なのか。

【高齢者支援課 齊藤氏】 今のところ、会場の規模数から考えて最大で350名程度。

【齋藤議長】 広く参加団体所属の皆様にも参加していただくということか。

【高齢者支援課 齊藤氏】 はい、広く参加していただければ。

【齋藤副会長】 費用はどうか。

【高齢者支援課 齊藤氏】 こちらは町田安心して暮らせるまちづくりプロジェクトの10周年記念の公演であるため、聴講の費用はなく、詳しい参加の申し込み方法などの決まり次第、事務局から連絡する。

協議事項3は、全会一致で承認された。

#### 4 その他

##### (1) 2023年度喀痰吸引研修について

【五十子委員】 喀痰吸引研修は、今年度は12名の参加申し込みがあり、これまでで計約300人の方が受講された。

##### (2) 町田市通所事業所連絡会より

【藤原委員】 通所事業所連絡会にて、オンラインでブロック会を開催する。事業所がオンラインで集まり、情報交換をする。今回は「家トレの活用」。リハビリテーション連絡会と協力し、解説をお願いし、行う。家トレの冊子は、会員事業所について通所は配布済み。

##### (3) 町プロ参画団体への加入について

【井上委員】 個人的にNST 学会員で、今日も学会が横浜であった。病院の管理栄養士さんが少しずつ在宅へ。調剤薬局も地域で薬局の管理栄養士が訪問栄養指導をやっているとか。この協議会に、管理栄養士の方がいらっしやらない。これからの在宅医療や、一回入院して退院した後に再入院させない管理栄養士の力って結構重要ではないか。町プロの参画団体に入るなどの意見は過去にあったか。

【長谷川委員】 答えにならないが、町プロに参画する団体については規定がある。以前4団体が追加で入られたかと思う。その規定に従っていただければ、職能団体が町プロの事務局の方に、最初は相談をしていただくことから始まる。私たちの協議会のなかで、どうこうというよりは、最初に団体に、その管理栄養士の団体から、一度事務局へ相談するということになる。そのような団体がいれば、伝えていただければと思う。

【高齢者支援課 皆川氏】 補足として同様の回答になるが、規定上、過去の実績からも、一度事務局のほうに団体から相談することが決まりになっている。もし、管理栄養士の団体から加入の希望があれば相談していただきたい。

【井上委員】 鶴川圏域の管理栄養士の方が栄養レシピを開発している。希望があれば相談するようにと伝えておく。

##### (4) 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト祝賀会について

【五十子委員】 10周年公演会をさせていただく予定になっているかと思う。終わった後、祝賀会を考えている。10年の間、日本のあちこちに話を聞きに行くと、10年もやっているところは実はない。それは結構すごいことだ。それも川村先生が最初に2013年に立ち上げていただいて、皆さんのご尽力のおかげで、ここまでなれたと思う。行政と一緒にやれるというのは中々ない。10年もやれたというのは皆さんのおかげ。だからこそ、記念講演会もやろうよということで、それに加えて、祝賀会もさせていただけたらと思っている。参加費などは今後検討する。

##### (5) その他

【五十子委員】 全然関係のない話になるが、前回の協議会は、10月。実は、完全に覚えていない。コロナの影響で医療に関わる人が減少。皆さんは、関わらなくなったというよりかは、受診をしなくなったのではないか。高齢者の方々のお話ではなく、どうか皆さんの自分の健康に対して、もう一度健康管理をした方がいい。町田病院にいた副院長先生が、急死をされた。まだ46歳という若さで、亡くなられて、残されたものは大変であり、急にいなくなったことが悲しい。申し訳ないが、亡くなった直後で、前回の記憶を全く覚えていない。皆さん、コロナの後で多分自分のことをほったらかしになっているんじゃないかと思う。この場を借りて、各団体で、ご自身の健康管理をもう一度見直しをお願いしたい。

(6) 次回の協議会の開催日程

現在調整中で、未定となっている。決まり次第事務局からのお知らせとなる

5 閉会挨拶

【齋藤副会長】 この町プロの10年。五十子先生からもあったが、10年続いているところは地域では少ないという話を聞いた。この会が繁栄することが市民に対しても良いことである。皆さんが研修部会などのいろんな企画をしていただいているということに対しても、深く感謝している。これから課題がいっぱい出るということは、私たちがやらなくてはならないことがいっぱいあるということである。皆さんの力を合わせて、市民のためにやっていくということを皆さん考えていただきながら、活発な意見をこれからもお願いしたい。今日はどうもありがとうございました。

以上の議案審議、協議を行い、2023年度第3回の協議会を閉会した。

以 上